訪問看護ステーションつくしのえん

管理者　三好　明子

今回は、「つくしのえん」の強み、取組みをお伝えします。

つくしのえんは、精神科へ通院している方を対象としています。つくしが丘病院だけではなく、他の医療機関（精神科）へ通院している方へも訪問看護を行っており、青森市内のほか、平内町、蓬田村、外ヶ浜町、今別町に訪問することもあります。

つくしのえんの強みは、つくしが丘病院と密接に連携していることで、必要に応じて多職種（精神科認定看護師、精神保健福祉士、作業療法士）での訪問看護も可能であることです。

昨年度は作業療法士と訪問する機会が増え、ご利用者様やご家族からの希望や相談を受けながら自宅での運動や外出のきっかけを作り、抱える不安を話す場所づくりなどを行いました。

私たちの支援がご利用者様とご家族の次の目標へ繋がるよう心がけて活動しています。

訪問看護ステーション
つくしのえん
の詳細については、
電　話
017-718-7113
まで
お気軽に
お問合せください。

つくし　つめこみニュース

つくしが丘病院では、チーム医療に参加していただける仲間を募集しています。

例えば医師の場合…

急性期救急医療から児童思春期、精神鑑定などの司法精神医学に至るまで幅広く診療をしており臨床経験をしっかり積めるほか、精神保健指定医、精神科専門医などの取得にも十分期待にお応えすることができます。また、メリハリのある勤務体系のため、プライベートな時間も充実させることができます。

ご応募お待ちしています!!

つくしが丘病院に来られる方、面会を希望される方へ
ご協力をお願いします

〇病院に来られる方（患者、患者の家族、業者等）
- 来院中はマスク着用と手指消毒を行ってください。
- 発熱等かぜ症状がある場合や新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の検査が陽性となった場合は来院を控えてください。

〇面会を希望される方
- 面会は15分、２名程度とします。
- 患者・面会者ともに面会中はマスクを着用してください。
- 面会中の飲食は控えてください。
- 家族・保護者・治療に関係する者以外の面会は控えてください。

〇外出泊される方
- 外出泊の迎え等の付き添いは２名程度としてください。
- 外出泊中は、手指消毒や混雑した場所でのマスク着用等の感染対策を行ってください。
- 外出泊中に発熱等の症状が現れた場合、可能であれば外宿泊を延長し、療養後に帰院してください。

青森県立つくしが丘病院
〒038-0031 青森市三内字沢部353番地92　TEL 017-787-2121
ホームページ　https://aomori-tsukushigaoka.jp/
アクセス
青森市営バス
・古川バス停から「つくしが丘病院行き」又は「岩渡行き」約20分
タクシー
・JR青森駅から約20分
・JR新青森駅から約５分

すぎな
青森県立つくしが丘病院
第189号

副院長就任にあたって

副院長
敦賀光嗣

令和５年４月より青森県立つくしが丘病院副院長を拝命いたしました敦賀光嗣です。

当院勤務は平成23年からで、途中、弘前大学医学部附属病院への出向を挟み現在にいたります。今後ともよろしくお願いいたします。

かねてから考えていたことなのですが、「長」と名のつくもの、あるいはそれに類する名のつくものについて、しばしばその役を担うことになった本人はもとより、周囲もそれに反応し、特別な態度をとることがあります。ですが、私自身はなるべく、態度をできる限りこれまでと同様にするよう努めておりました。「副院長」という「業務」に徹し、これからも万事にあたりたいと考えております。

昨今の情勢の変化、とくに疫病の流行や戦争、経済問題など、精神科をはじめ医療をとりまく環境はよい話がきこえてきません。しかし、私が最近危惧しているのは、わが国が直面しているこの苦境を乗り越えるためには、弱者が犠牲になることはやむを得ないという主張が、各方面からあがっており、一部には少なからぬ賛同者がみられるということです。

病人はいつの時代も弱者です。幼い者、老いた者もしかりです。生産年齢人口の減少と高齢者人口の増加は、財政にとっては税収の減少と支出の増加が見込まれるとして、高齢者に集団自決をすすめる主張まで出る始末です。集団自決はメタファーだと擁護する向きもありますが、いずれにしてもある特定集団しかも弱者に向けて、理不尽な負担を強要しているように見えます。

平成28年、障がいを持つ者が居住する福祉施設のなかで、入居者を標的とした大量殺人事件が発生しました。加害者は事件を起こした動機として、「国の負担を減らすため、意思疎通を取れない人間は安楽死させるべきだ。」と述べたとされています。この動機も、弱者が犠牲になることを正当化する主張の変奏です。

自然界において、野生の生き物たちは「弱肉強食」の原理のなか、生き残る知恵、技術、そして体力のないものから淘汰されていきます。ある者は、人間の社会もこの自然界の原理に従って、生産性のない者、生産能力を失った者は淘汰されてもよいのだ、と自らの主張を正当化しようとしています。

はたしてそれは正しいのでしょうか。弱者を、社会全体で支え養う仕組みは、人間に固有のありかたであり、そのことは、人間の文化を形づくる側面のひとつであるはずです。

医療や福祉が、病いや老いといった自然への（ささやかながらも）抵抗であり、不自然で、なおかつ文化的な営みであることは、改めて認識されなければなりません。

文化とは、人間らしさの現れで

す。医療とは文化であり、常にその適応範囲を各方面から問われつつも弱者に対峙し、その時点での最善を尽くしていけるように、我々社会の構成員は考えていかなければなりません。

弱者の範囲はどのように定義するのか、医療資源の適切な分配はどうあるべきなのか、弱者を演じる者はどのように扱うべきかなど、問題は尽きませんが、これらについては、例としては学問のなかで学術的な解決をはかっていくといった、別のあり方で解決すべきなのだろうと私は考えております。

つくしが丘病院の役割

医療連携室　成田　榛名

つくしが丘病院では、精神科医療の提供以外にも、さまざまな役割を持っていますが、そのなかの一つに、相談場所としての役割があります。

通院されている患者さんとそのご家族を対象に開設している「こころの相談窓口」では、認知症看護認定看護師と精神科認定看護師がそれぞれ相談を受けております。認定看護師とは、看護職能団体の研修を受け、認定試験に合格した看護師のことです。担当する日にちが決まっておりますので、ご希望の方は外来へご相談ください。

他にも、情報を提供する場所をつくる役割もあります。通院されている患者さんのご家族を対象に家族教室を開催しており、専門家による病気についての講義や、ご家族同士のグループワークにご参加いただけます。

また、つくしが丘病院では認知症疾患医療センターを開設しております。ご本人やご家族の皆さんを対象とした認知症に関する相談や、地域包括支援センターの職員の方々などを対象とした研修会の開催や情報提供を行っております。ご自身のこと、ご家族のこと、認知症のことなど、お気軽にご相談ください。

家族教室通信

医療連携室　川崎　佑樹

８月25日に約３年ぶり（前回：R2.11.7）に家族教室を開催し、当院の北川医師が「精神疾患」をテーマに講義しました。

疾患ごとに症状・治療方法・対応方法などの説明があり、うなずきながら受講するご家族の姿がありました。久しぶりの開催にも関わらず、７名のご家族に参加いただきました。中には、初めて参加いただいた方もおり、「参加してよかった」という声が多く聞かれ、講義内容に関する質問も出るなど、とても有意義な時間だったと感じました。

～２回目は11月21日（火）～

例年、希望される方が多い「成年後見制度」をテーマに開催予定（本稿作成時点（R5.10月））です。ご家族が自分亡き後を心配するケースは少なくありません。

家族教室の開催予定はホームページでも随時お知らせしていきますので、ご興味のある方は、ぜひ、お気軽にご参加ください。

外来のご紹介

看護師長　扇野　邦子

皆さん、こんにちは。つくしが丘病院の外来診療のご紹介をします。

受付時間は、平日午前８時から11時までとなっております。

正面玄関は７時に開き、８時から受付開始、８時半頃から診察室でその日の担当医師による診療が始まります。お名前でなく、受付した番号でお呼びしております。

外来診療のほかに、認定看護師による『こころの相談窓口』や、公認心理師による心理検査、精神保健福祉士による地域生活に関わるご相談を承っておりますので、ご希望の際は、お気軽に医師や看護師へご相談ください。

今年の春、外来待合ホールにベビールームをご用意しました。小さなお子様連れや混雑した状況が苦手な方は外来看護師にお声がけください。待ち時間短縮には院外処方もお勧めです。

また、平日11時から売店手前のフリースペース（休憩所）もご利用できます。売店には月曜は宅配パン、昼頃にお弁当が届きます。ちょっとのぞいて、心もお腹も癒やされてみませんか？

検査・採血についてのＱ＆Ａ

検査室（臨床検査室）　佐藤　裕久

病院や検診などで採血や尿、心電図などの検査を受けたことはないですか？

臨床検査とは、病気の診断・治療効果の判定、検診に使われる検査のことで、検査室では、採血した血液や尿の検体を分析し、栄養状態や貧血など身体の異常を調べる『**検体検査**』と、心電図や脳波など生体から直接情報を調べる『**生理検査**』を行っています。

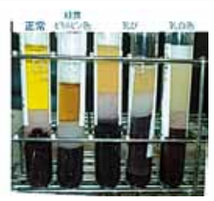
採血の時によくある質問を紹介します。

Ｑ こんなに本数必要なの？

Ａ　一般に初めて採血する時の採血管の種類は５～６本位です。血算、生化学、血糖、凝固検査など…

採血管の中には、検査内容別に「血液を固まらせない薬」が入っているため本数は多いものの、１本あたりの採血量はわずかで、全量でも20mL位です。

Ｑ いつも脂質を指摘されるけど血液はどうなっているの？



Ａ　採血した採血管を遠心分離すると、血液が固まった層と上澄み（血清）の層に分かれ、検査では血清を分析します。

正常な血清は薄い黄色ですが、これが緑黄色や乳び（白濁）・乳白色だと、肝機能が悪かったり脂質異常症となっている可能性があります。